

## Abstract

## 組換え型第VIII因子濃縮製剤によって治療されている国内血友病患者におけるHIV感染に関する検査および臨床マーカー

### Laboratory and clinical markers of HIV infection in a national haemophilia cohort treated with recombinant factor VIII concentrate

J. M. Teitel, R. Card and H. Strawczynski

1993年10月の初めから約6カ月間にわたり、大部分のカナダ人血友病A患者は血漿由来の中間純度第VIII因子濃縮製剤(ipvIII)から組換え型第VIII因子(rvIII)に変更された。HIV感染の進行にこの変更がどのような結果をもたらしたかを確認するために、濃縮製剤を変更した時点でHIV血清陽性であった患者の臨床的状态およびCD4およびCD8細胞数に関する調査データを集めた。データの記録は変更時点、その後2年間は毎年行った。また変更の1年前のデータもレトロスペクティブに記録した。試験期間中にCD4細胞は有意に減少した。多重直接比較検討により、この減少は患者が中間純度第VIII因子濃縮製剤を

使用していた最終年を含む期間に限られていることが明らかとなった。rvIIIのみが使用されていた2年間では、CD4細胞の有意な減少はみられなかった。CD4細胞の変化はipvIIIまたはrvIIIの投与日数の長さとは関連していなかった。なお、CD8細胞は試験期間中に有意に減少することはなかった。rvIIIが使用されていた2年間に、死亡頻度または臨床症状の進行の明らかな軽減はみられなかった。しかし、rvIII開始後CD4細胞数が安定する傾向がみられたことは、それに対応してこれ以降、臨床的にも安定するのではないかと期待される。

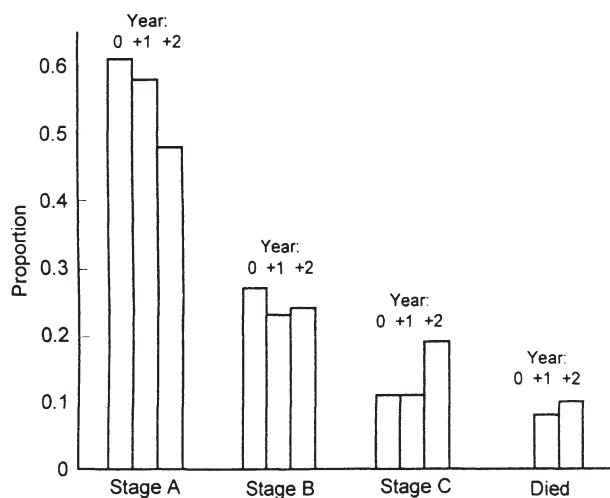


Fig. 1. Proportion of patients alive in CDC clinical stages A, B or C, or dead, at years 0, +1 and +2.

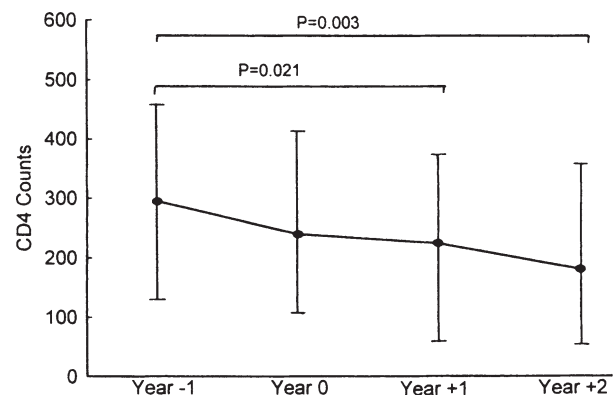


Fig. 2. Median CD4 cell counts for 143 study patients at the four test intervals. Vertical bars encompass the first and third quartiles. *P* values are shown for the two pairs of values which failed to achieve significance. Comparisons of all other pairs of values over the entire study period was significant, with a *P* value of 0.018.